

分科会1:水質調査・美化活動

今井 貴大 氏 (東海大学大学院人間環境学研究科)

高 雅 氏 (東海大学大学院人間環境学研究科)

黒澤 龍也 氏 (東海大学大学院人間環境学研究科)

小巻 慎吾 氏 (湘南里川づくりみんなの会 副会長)

(ポスター展示参加団体)

- ・河内川あじさいの会
- ・湘南里川づくりみんなの会個人会員(上田秀一氏他)
- ・東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程 藤野研究室



ポスター見学より



意見交換会より

【概要】

分科会1(水質調査・美化活動)では、ポスター展示見学後、14:00~15:30の時間で意見交換会を行いました。まず、冒頭の10分間で東海大学大学院人間環境学研究科修士1年生の今井が「大根・鶴巻地区における下水道事業と河川の水質の現状」についてプレゼンを行いました。秦野市内の下水道が普及し、大根川の水質が改善されている事を、研究室で行っている終日調査と行政のヒアリング調査を用いて研究内容を発表しました。

プレゼン後の意見交換会では、

- ・下水道普及と水質について
- ・洗剤と水質汚染について
- ・河内川における美化活動と小学校への呼びかけ

が主な意見交換内容となりました。

下水道普及と水質については、現在の下水道普及率が大根鶴巻地区においては82.1%であるが、さらに下水道普及率が上がれば水質は良くなるのか？という意見がありました。プレゼンの結果から、水質はさらに良くなるだろうという意見が出ました。

洗剤と水質汚染については、よく洗剤は使いすぎる事で、河川の水生生物の生息を阻害してしまうから、石鹼を使うべきなのでは？また、洗剤と石鹼ではどれほど毒性が違うのか？という意見がありました。これについては、東海大学大学院人間環境学研究科修士2年生の黒澤が答えました。洗剤の成分である、LASとPOERという化学物質は皮膚を暴露してしまう事が研究からわかっている為、やはり洗剤はあまり使用しない方が河川の環境を守るには必要であるそうです。

河内川における美化活動では、河川のごみ拾い活動を小学校に呼びかけた所、もちろん活動にも参加してくれましたが、なにより校長先生が広くごみ拾いの必要性を関係者に呼びかけてくれているそうです。校長先生は、

「大人がごみを出し、子供が拾う世の中。これではいけません！みなさん1日1つごみを拾いましょう。そうすれば河内川は綺麗な川で有り続けます。」

とおっしゃったそうです。確かにその通りであります。

さまざまな意見がでましたが、やはり環境問題には数学のように答えが決まっている訳ではなく、「何かルールを決めた」という訳ではありませんが、非常に有意義な時間を過ごす事ができました。

分科会2:環境教育

田所 建人 氏 (東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程)

斉藤 優樹 氏 (東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程)

瀬戸 美晴 氏 (東海大学大学院人間環境学研究科)

柳川 三郎 氏 (湘南里川づくりみんなの会 幹事)

(ポスター展示参加団体)

- ・金目川水系流域ネットワーク
- ・鶴巻ホテルの会
- ・湘南里川づくりみんなの会広報担当(手塚真理氏)
- ・向上高等学校生物部



【概要】

参加団体展示物を見学した後、学生発表、参加団体活動報告(金目川水系流域ネットワーク・鶴巻ホテルの会・湘南里川づくりみんなの会広報担当(手塚真理氏)・向上高等学校生物部)を行った後、意見交換、質疑応答を行いました。

【意見交換内容】

- ・河川で子供が遊ぶ際の安全性について
 - ・川のイメージ(川は汚染されているというイメージが強い)
 - ・親の教育(川が綺麗だった頃を知らない世代、公害世代に育った親の教育)
 - ・学校での野外活動などにおける教師への責任→活発に野外学習などに取り組めない
 - ・情報の正確性
 - ・人格形成の大事さ
 - ・自然の回復→活動を継続する大切さ
- 以上の意見がありました。

分科会3:生物多様性

【写真】



【概要】

- 小山 幹樹 氏（東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程）
桑鶴 旭生 氏（東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程）
野間 紀之 氏（NPO法人東海大学地域環境ネットワーク 理事）

（ポスター展示参加団体）

- ・NPO 法人東海大学地域環境ネットワーク
- ・くずはの家えのきの会
- ・向上高等学校生物部

内容:参加団体によるポスター展示及び発表

学生発表「生物多様性とは何か」

意見交換会「環境保全とは何か」「私たちにできることとは何か」

分科会3「生物多様性」では、学生が「生物多様性とは何か」というテーマで発表をしました。そのテーマをもとに意見交換会を行いました。意見交換会では、人と自然環境の繋がり、人間が自然環境を保全する意味や私たちが今後どのように生物多様性と繋がっていかねばならないのかということを話し合いました。

意見交換内容

- ・「人間の豊かな生活のピークは過ぎた。では、これからどう環境を保全しながら、豊かに暮らしていくのか？」
 - ・「人との暮らしと自然環境は繋がっている。」
 - ・「私たち若い人々は、1人1人が小さな力でも強い意志をもって環境問題にたち向かっていかなければならない。」
 - ・「これからはモノ、カネの考え方を転換させる必要がある。」
- などの意見が出ました。